

地域を基盤とした福祉教育事例集

～福祉教育推進事業実践報告～



みやざきボランティア活動推進
マスコットキャラクター

ボラみん

社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会

宮崎県ボランティアセンター

平成28年3月

はじめに

今日、生活困窮や孤立化、虐待問題など地域住民が直面する様々な生活課題がみられる中、地域のつながりをはじめ、公的な支援を行う関係機関・事業所・NPO・ボランティアなどが連携・協働する体制を構築し、生活課題に対して一体となって取り組む等、地域福祉の推進が求められています。

地域福祉やボランティア活動を推進する中で、福祉教育には、子どもの健全な育成を図るという目的に加えて、地域社会形成の主体である住民一人ひとりが「自分たちの地域がどのような課題を抱えているかを学び」、「それらの課題に対応するための解決策を計画し」、「それを実行するための機会を得る」という重要な役割があります。

また福祉教育は、「最終目的は担い手の育成であること（地域の主体である住民が自らの手で活動を行うこと、及びその人材を育成すること）」という視点を持って進めていくことが大変重要です。

そこで本会では、「だれもが安心して暮らせるまちづくり」を実現するために福祉教育にも力を入れており、子どもから大人までの地域住民すべてを対象とした福祉教育推進事業を推進しています。

この取組は、地域をフィールドに地域住民一人ひとりが学びを通して地域の生活課題等に気づき、その解決に向けて地域福祉・ボランティア活動へつなげていくことを目指しています。つまり、地域の生活課題を一つの教材として、学ぶプロセスを通して住民一人ひとりが市民活動の担い手であることを自覚するとともに、地域の福祉力や教育力等を向上させるものです。

今回、本会で平成26年度からモデル事業として行った（2年間もしくは1年間）実践事例を「地域を基盤とした福祉教育事例集～福祉教育推進事業～」としてまとめました。今後、学校や社協、地域での福祉教育推進の参考にしていただければ幸いです。

平成28年3月

社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
会長 佐藤 勇夫

目 次

- 1 日向市（東郷地区）における福祉教育の実践・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 3
（平成26・27年度指定地区）
- 2 美郷町における福祉教育の実践・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 17
（平成26年度指定地区）
- 3 日向市（大王谷地区）における福祉教育の実践・・・・・・・・ p. 29
（平成26年度指定地区）

（各事例の末頁に県社協のコメントを掲載しております。）

宮崎県福祉教育推進事業実践報告

日向市東郷町における福祉教育の実践



日向市社会福祉協議会東郷支所

1 地域の概要・課題等

日向市東郷町は、市西部に位置し、面積の約9割を豊かな森林が占め、中央には九州山脈を源とする耳川が流れ、その支流である坪谷川の両岸には農地や集落が点在する、美しい自然を有した農林業の盛んな地域です。

また、全国的に有名な歌人若山牧水の生誕地でもあり、高い文化的土壌が潜在し、「牧水のふるさと」として町内外の人々から親しまれています。

東郷町の人口は、ピーク時の12,000人から、3,505人（平成27年4月1日現在）と大幅に減少しており、さらには市全体の高齢化率27.71%に対し、43.28%であるなど、過疎高齢化が極めて進行しているという状況にあります。

若年者の町外への流出、未婚者の増加などにより一人暮らし世帯も多くなっています。特に山間部においては、家々が離れていることもあり、孤立につながりやすい状況があります。また、住民の気質として、高齢になっても他者からの支援を受けずに、自力で生活していこうと考える傾向がみられます。

地域全体で協力し支え合う体制の構築と、孤立しがちな高齢者への対応策を講じることが、大きな課題であると考えます。

2 平成26年度の実践

(1) 福祉教育の活動内容

ア 活動理念

学校を活動の拠点としながら、地域の住民と一体となってひとつの事業に取り組むことで、児童の地域福祉に対する関心を高める。

イ 活動方針

- ・自分の住んでいる地域のことを深く知る。
- ・自分が、地域の人に見守られながら成長していることを再認識する。
- ・自分が、地域のために出来ることは何か、考えてみる。
- ・自分が、今、地域で困っている人のために、出来ることをする。

ウ 活動内容

平成26年12月8日（月）

東郷学園5, 6, 7年生を対象に「ふくしの授業」を行いました。地域福祉とは、地域に暮らす誰もが幸せに生きること、そのための仕組みづくりとして、東郷町では「黄色い旗運動」「安心カードの作成、配布」など、住民どうしの見守り活動を強化していることについてお話ししました。

【学習前の、児童生徒の「福祉」のイメージ】

- ・体が不自由な人を介護する仕事。
- ・施設、デイサービスのような老人ホームのこと。
- ・お年寄りのお世話は大変そうだなあと思う。
- ・自分には福祉に関係することは出来ないと思う。見ていて辛いから。

【ふくしの授業 学習後の感想】

- ・地域福祉という言葉には、地域を幸せにするという意味が込められていると思った。
- ・老人ホームが福祉ということかと思っていた。でも児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉などがあると知って驚いた。
- ・「ふくし」は「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに、ということを知ったので、これから活用していきたい。

【東郷町の現状について 学習後の感想】

- ・高齢者が町の人口の半分も占めているとはビックリした。「高齢化社会」なんだと改めて思った。
- ・高齢者を支えていくには、大人だけでは人数が足りないの、自分たちにも出来ることをやってみたいと思う。
- ・高齢者が寝込んだり、熱があつたりしても、ひとり暮らしの人は誰にも気づいてもらえない。早く気づいてあげられるよう、東郷町には「黄色い旗」があると知って驚いた。黄色い旗運動に自分も参加してゆきたい。



*トラの着ぐるみを着ているのは教頭先生です！

平成27年1月6日（火）

区公民館にて、区長はじめ地域の協力者と「子ども地域診断事前打合せを行いました。東郷学園での福祉教育の目的、ふくしの授業で児童が学習したこと、地域診断の目標などについて説明した後、当日の流れ、班構成などについて確認しました。

平成27年1月16日（金）

東郷学園参観授業にて、6年生がふくしの授業で学んだこと、感じたことを発表しました。グループごとに意見をまとめ、自分たちで考えた創作劇「デイサービスに行きたがるおじいちゃん」「黄色い旗について」などの発表もあり、福祉に

ついて学習する前後で、児童の福祉に対する考え方が変化したことが感じられる内容でした。保護者からは「私たちも知らないことを聞いて勉強になった」「子どもたちの発表を聴いて、私たちも地域のことを知らなくてはいけないと感じた」等の感想が聞かれ、保護者の方にも福祉についての学びをしていただける良い機会になりました。



* 1月6日 公民館での打合せ



* 1月16日 参観授業での発表

平成27年2月4日（水）

校外学習として「子ども地域診断」を実施しました。6年生16名が6班に分かれ、地域の協力者とともにひとり暮らし世帯や高齢者世帯を訪問し、困りごとなどについて聞き取りをしました。予めお願いしていた訪問先の高齢者も、児童が来るのを楽しみに待っておられました。

2時間かけて地域診断を行った後、教室に戻り、活動のまとめを行いました。実際に高齢者宅を訪問しお話したことで、児童はたくさんを感じ、一生懸命に地域のことを考えながらまとめていました。



* 協力者 福祉推進員さん



* 区長さんに引率されて・・・



平成27年2月21日（土）

「みんなが集まれる場」のひとつとして、また、地域診断をして児童が考えた

ことを地域の人たちに発表出来る場として、「とうごうキッズおもてなしカフェ」を開催しました。児童、保護者、高齢者、地域住民、校長先生や教頭先生も一緒に、美味しいお茶とお菓子をいただきながら歓談した後、各テーブルで「こんな地域だったらいいなあ！」をテーマに話し合いました。



* 「こんな地域だったらいいなあ！」

話し合いの結果、以下のことが提案されました。

- 笑顔であいさつ
- 移動スーパーが欲しい
- 災害時の避難道を作ってほしい
- また「おもてなしカフェ」がしたい

平成27年3月28日（土）

第3回の話し合いをもとに、高齢者とお花見をしながら、みんなで楽しく過ごすことを目的として「とうごうキッズさくらカフェ」を開催しました。公園のトイレ掃除、受付、ゲーム進行など、子どもたちが大活躍の1日でした。



エ 成果と課題

地域診断、キッズカフェ、両事業とも、学校・地域・社協の連携が無ければ成立しない企画を実施できたこと、また福祉教育の継続の必要性が学校にも認識され、次年度の計画に組み込まれたことは、大きな成果だと考えます。

ふくしの授業の前後で、児童の福祉に対する意識の変化が見られたこと。実際に地域を回り高齢者の暮らしの様子を知ることで、より良い地域にするために、大人に任せるだけでなく自分たちも何か出来ることから始めようという気持ちを持ったことが、何よりいちばん大きな成果だったと思います。

課題としては、この経験をした6年生が中学生になり、部活動優先の生活となるため、地域での活動が難しくなることです。中学生になっても「地域の中で活動できる」体制の構築が必要と考えます。地域住民と定期的に交流が出来るよう、まちづくり協議会等の機関との連携の必要性を感じました。

(2) 福祉教育の実施体制等

ア 事業の実施体制

(どのような機関と)

東郷学園、地域診断を実施する区の区長、民生委員、福祉推進員、協力住民
(どのような体制で)

東郷学園をはじめとする各機関との連絡を密にとれる体制で、以下のことを実施しました。

- ・東郷学園との打合せ
- ・(該当地区) 区長、民生委員への説明会の実施
- ・区長、民生委員による訪問先高齢者宅、及び協力住民の情報提供
- ・区長、民生委員、社協職員とで高齢者、協力住民への説明と協力依頼
- ・地域診断実施前の打合せ

イ 学校等、関係機関との関わり

東郷学園では、校長先生をはじめ、担任、また「総合的な学習の時間」担当教諭が、福祉教育についてよく理解されており、非常に協力的に関わっていただきました。

10月から日程調整等を開始し、11月から授業内容、地域での活動等についての協議を重ねました。「総合的な学習の時間」担当教諭が窓口となり、打合せは社協東郷支所、または東郷学園校長室、あるいはFAXでのやり取り等を行いました。授業や活動のための事前、事後のワークシート記入や参観授業での発表の準備等、丁寧に時間を割いていただきました。

同時に、地域診断を実施する区の区長、民生委員、福祉推進員への説明と協力をお願いをしたところ、すぐに訪問先の高齢者宅をピックアップして下さり、活動当日に参加出来る地域住民への声かけもしていただきました。

また、「地域診断」当日は、東郷学園地域コーディネーター(学園と学校ボランティアとの調整役の方)が、先生方を車に乗せて、地域を回っていただきました。

「キッズカフェ」で提供するお菓子も、県外からの移住者に発注することで、その方と地域住民との新しいつながりが出来ました。

ウ 関係機関との連携を図るために

担当教諭との協議を重ねる中で、福祉教育、とりわけ東郷町における「地域福祉」の重要性についての理解を、事前に深めていただいたので、その後の「子ども地域診断」「キッズカフェ」においての「地域の中の子どもたち」の姿を見て、貴重な学びが出来たと感じていただけたようです。次年度の学校のカリキュラム計画の段階で、「授業→地域での活動」という流れで『福祉教育』の時間を確保していただきました。

また、3月の地域福祉研修会(福祉推進員を対象とした東郷町内の研修会、参加者70名)においても、子どもたちの活動の様子、気づきと学びをパワーポイントを用いて紹介しました。

3 平成27年度の実践

(1) 福祉教育の活動内容

ア 活動理念

学校を活動の拠点としながら、地域の住民と一体となってひとつの事業に取り組むことで、児童の地域福祉に対する関心を高める。また、児童の福祉の学びを地域住民と共有化させるための土壌作りを進めていくことを目的とする。

イ 活動方針

- ・地域福祉について学ぶ。
- ・高齢者について理解を深め、気持ちに寄り添う接し方を考える。
- ・児童の福祉の学びを地域住民と共有し、地域全体の学びのための活動とする。

ウ 活動内容

平成27年11月17日（火）

東郷学園5、6、7年生を対象に「特別支援理解集会（アイマスク体験）」が実施されました。担当教諭より要請があり、「障がいについて」の講話と、アイマスク体験のフォローを行いました。

【体験の感想】

- ・ぼくは、先生の「人はそれぞれ違う」という言葉になっとくしました。これからは、人の良いところをさがしていこうと思いました。（5年生）
- ・自分のまわりで、困っている人はたくさんいます。人それぞれで、その人に合った介護のしかたがあると思います。私はアイマスク体験で、こまかい声かけがあまり出来なかったのもっと人のことを考えていきたいです。（5年生）
- ・今日学んだことは、障がい者の気持ちだけでなく、障がい者を支えるには、どうしたらよいか？ということでした。（7年生）

平成27年11月30日（月）

5、6年生を対象に「ふくしの授業」を実施しました。福祉、地域福祉について、東郷町の現状、東郷町での見守り活動、地域にはいろいろな人が「ともに生きている」ことについての講話を福祉施設の職員に行っていただきました。



* 東郷町内の障がい者福祉サービス事業所
スマイルホーム360の職員のお話

【ふくしの授業 学習後の感想】

- ・今日のふくしの授業で、「福祉とは人が幸せに生きること」、また、障がいとは「やりたいことが出来ないということ」が分かりました。今、東郷町では、高

齡者が増えて、悩みなどがたくさんあると思います。その悩みを解決しよう、ふだんの暮らしを幸せにしようと、黄色い旗運動や安心カードの配布などを行っているのを知って、すごいなと思いました。私も、少しでも地域の人たちが幸せになるように努力しようと思いました。

- ・今の東郷町の現状は、人口が年々減っていること、そして高齢化が進んでいるということです。中学生以下の子どもの人数の割合が10人に1人ということは、私は自分のことを、貴重なものだなあと思いました。そして2人に1人が高齢者ということは、私たちが地域の高齢者を支えていかなければならないのだと思いました。
- ・僕は、福祉の意味があまりわかっていませんでした。でも今日のお話を聞いて、僕の友だちや家族にも幸せになってほしいと思います。また、自分も幸せになれるようにしたいです。これからまた、友だちや家族が幸せになってくれるように、僕が頑張ります。

平成27年12月7日（月）

6年生によるふくし教育地域活動を実施しました。6年生19名が3会場に分かれ、「地域診断」「買い物支援のお手伝い」「ハンドマッサージ」を行いました。「地域診断」では、地区の良いところや困りごとなどの聴き取りをしました。「買い物支援」では、重い商品を持ってあげたり、レジでの袋詰めなどの作業のお手伝いをしました。また、事前に講習を受けて練習していた「ハンドマッサージ」を高齢者にしてあげて、とても喜ばれました。



*買い物支援のお手伝い・・・値札を置いたり、袋詰めなどの作業を行いました。



*ハンドマッサージ・・・少しでも喜んでいただこうと、一生懸命練習しました。



【地域診断での気づき】

- ・僕たちと話しているとき、高齢者の方が楽しそうに話してくださいました。僕たちに出来ることもありそう。
- ・足や腰が悪い高齢者には、やはり近くに店があった方がいいことが分かりました。
- ・思ったより自分の好きな趣味などを楽しんでいると聞いて、びっくりしました。買い物など、車が無いから困っていると聞いて大変だなと思いました。ハンドマッサージでは気持ちいいと言ってくれたので、いろいろな人にやって喜んでもらいたいと思いました。
- ・近所づきあいがいいと1日が楽しくなるのでいいと思いました。買い物支援は、店が近くに無いので、地区に来るのはいいなと思いました。

平成27年12月12日（土）

地域福祉活動「みんなのマーケット」を実施しました。児童のこれまでの学びを地域の人に発表する場として、また、児童と「まちづくりの夢」を語り合える場として、道の駅の「ふるさと味工房 研修室」を開催場所として、多くの地域住民の参加をいただきました。福祉教育での気づき、地域のために自分たちが出来ることなどを各グループごとに発表しました。





【参加者の感想】

- ・今日はありがとうございました。みんなが東郷のことをとても大事に思っていることがすごく伝わってきました。
- ・子どもたちが地域づくりについて、この町に必要なものはないか、全国からの情報を集め真剣に考えたことは素晴らしいと思った。
- ・地域の方が、子どもの意見を一生懸命聞いてくれて嬉しかったです。後半は、みんなで熱心に話し合いが出来たので、こういう集会はずっと続けてもらいたいです。

エ 成果と課題

児童の地域での学習では、実際に「買い物支援」を体験したことで、高齢者の困りごとや、それを支援するための取組について、より深く理解出来たのではないかと思います。今後の日常生活においても、高齢者に限らず「地域の中の困りごと」に気づける感性を磨いていけるよう、社協としても発信し続けていきたいと思えます。

また、「みんなのマーケット」においては、区長、民生委員、学校ボランティア、まちづくり協議会会員・担当市職員、保護者や地域住民の方々の参加をいただいて、みんなで東郷町のことを語り合えたことが、児童、地域住民双方にとって大きな刺激となったようです。今後、まちづくり協議会に対しても、

「子どもの声を聴く会」を、定期的を開催することを提案していきたいと思えます。

(2) 福祉教育の実施体制等

ア 事業の実施体制

(どのような機関と)

東郷学園、学園地域コーディネーター、学校ボランティア、まちづくり協議会、スマイルホーム利用者・職員、区長、民生委員、福祉推進員、児童保護者、地域住民

(どのような体制で)

東郷学園をはじめとする各機関との連絡を密にとれる体制で、以下のことを実施しました。

- ・東郷学園地域コーディネーターとの打合せ
- ・区長、民生委員への説明会の実施と打合せ
- ・東郷学園、スマイルホーム、区長、民生委員との地域活動実施前の打合せ

イ 社協が学校等の機関とどのように関わり、関係機関を資源としてどのように働きかけを行い、活用したか。

(東郷学園との関わり)

東郷学園より各サロンへ、学園文化祭への作品出展とおじゃみ作りの依頼をするにあたり、学園と各サロンとの連絡調整を行いました。



*教頭先生と地域コーディネーターがサロンを訪問しました。

(スマイルホームとの関わり)

買い物支援について、今年度より協議を重ね、昨年9月より試験的に開始しました。サロンや、人の集まる個人宅等との連絡調整を行いました。



(まちづくり協議会との関わり)

まちづくり協議会会員や、担当市職員にも、子どもたちの考える「まちづくり」の意見を聞いてもらえるように「みんなのマーケット」を企画しました。今後もまちづくり協議会と、子どもたちが繋がるような企画等考えていきたいと思えます。

ウ 地域において福祉教育が継続的に推進されるための仕組み

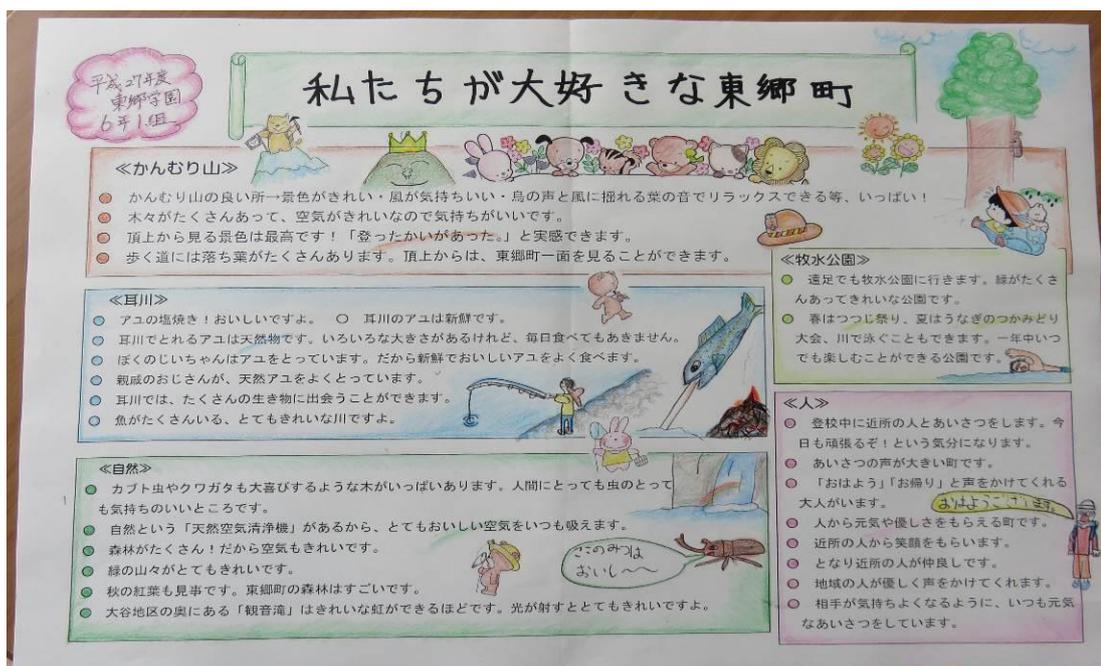
東郷学園には、学校ボランティアの統括、連絡調整を行う「地域コーディネーター」が配置されています。この方はまちづくり協議会の青少年部会にも所属されているので、学園の活動のことも、まちづくり協議会青少年部会へと伝わる、横の関係性が出来上がっています。



*地域コーディネーターと学校ボランティア

また、民生委員や区長の中にも、学校ボランティアとして活動されている方もおられ、子どもたちの福祉教育を推進するにあたり、新しい団体を組織するのではなく、既存の団体とのより一層の連携の強化を図ることが大切だと考えます。

東郷学園でも、現在の担当教諭が次年度異動しても変わらずに実施されるように、1月の早い段階で、次年度のカリキュラムに福祉教育の時間を確保していただくような関係性が構築出来ました。東郷学園での福祉教育に地域住民を巻き込みながら、また地域住民に対しても、年に3回実施する「地域福祉研修会」等を通じて、地域福祉に対する意識をよりいっそう高めていただけるように、今後も地域全体での福祉教育を推進していきたいと思えます。



*平成28年2月28日（日）「冠岳山開き」（日向市観光協会主催）にて、参加者に配布する東郷町のPRチラシを、6年生が作成しました。

美郷町南郷鬼神野地区における福祉教育の実践

発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験



美郷町社会福祉協議会

1 地域の概要・課題等

本町は、東臼杵南部地域にある3村（旧南郷村、旧西郷村、旧北郷村）が合併して、平成18年1月1日に誕生した町です。

宮崎県の北部に位置し、北は日之影町、延岡市、東は門川町、日向市、南は西都市、木城町、西は諸塚村、椎葉村に接し中央部には耳川が貫流し、北側には五十鈴川、南側には小丸川が流れ、これら河川の上流域に位置しています。

面積は県土の約6%の、44,884haであり、その約92%が山林です。

【美郷町の現況】（※平成27年3月1日現在）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (1) 総人口 | 6,083人 |
| (2) 行政区 | 25地区 |
| (3) 世帯数 | 2,786世帯 |
| (4) 65歳以上人口 | 2,786人（高齢化率45.5%） |
| (5) 15歳未満人口 | 527人（8.7%） |
| (6) 障害者手帳所持者（3障害） | 669人 |

美郷町は、県内1位の高齢化率で、およそ2人に1人が高齢者です。少子高齢化の著しい地域で、世帯数も年々減少しております。反対に、元気な高齢者が大変多い地域でもあります。

そのような中で、支え手不足は否めない状況にあり、福祉教育の推進は必須の課題と言えます。

2 福祉教育の活動内容

(1) 概要

「発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験」をメイン事業とし、計画から実施に至る過程で地域の方々と連携協働して実施しました。

(2) コンセプト

「地域に密着した福祉教育」をコンセプトに、地域の集落センターを拠点にして事業を展開しました。

(3) 目的

参加対象者である児童はもとより、地域住民や役員の方、民生委員児童委員の方も一緒に福祉や地域を考えるきっかけを提供し、その中で「支え合いの地域」の必要性や、「自分の住む地域の支え合いの力の素晴らしさ」を再確認し、同時に福祉課題に目を向けるきっかけとすることを目的として実施しました。

また、本事業の活動報告や社協のPRにも力を入れ、今後、学校や地域及び関係機関・団体等との連携体制を構築し、福祉を学ぶことの意味や必要性を伝えていくことを考えました。

(4) 活動内容

「発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験」をメイン事業として計画し、企画から運営に至る過程において地域の役員の方と一緒に作り上げました。

① 活動の流れ

月	内容
4月	
5月	1. 職員会議
6月	<p>2. 鬼神野地区役員会（事業説明及び意見交換） 参加者：25名（地区役員20、育成会会長1、社協4） 会場：鬼神野地区基幹集落センター 内容：地区役員会に出席し、事業実施の提案と協力依頼を行った。合わせて、福祉教育の必要性や地域の現状についての説明を行い、内容に関する意見を伺った。</p> <p>3. 小学校との打合せ（事業説明及び参加協力依頼） 対象：町内3小学校長または教頭 会場：町内3小学校 内容：各小学校に出向き、美郷町の福祉の現状や学校における福祉教育の現状について意見交換を行った。 本事業の目的や内容を踏まえ、参加協力依頼及び児童への参加斡旋依頼を行った。</p> <p>4. 教育委員会との打合せ（事業説明及び参加協力依頼） 参加者：3名（教育委員会職員2、社協1） 会場：教育委員会 内容：美郷町の福祉の現状や学校における福祉教育の現状について教育指導主事等との意見交換を行った。 本事業の目的や内容を踏まえ、参加協力依頼を行った。</p>
7月	<p>5. 区長との打合せ 参加者：3名（区長、社協2） 会場：区長宅 内容：内容の詳細に関する事、地域の方々の協力に関する役割分担等について検討を行った。</p> <p>6. 鬼神野地区役員会（内容検討会議） 参加者：24名（地区役員20、育成会会長1、社協2） 会場：鬼神野地区基幹集落センター 方法：区長との打ち合わせを元に、地区役員会にて内容の検討と役割等について検討した。</p> <p>7. 鬼神野地区育成会（説明及び内容検討会） 参加者：50名程度（鬼神野地区育成会、社協2） 会場：鬼神野地区基幹集落センター 内容：夏休み前の育成会行事に参加し、本事業の目的や内容を踏まえ、参加協力依頼及び対象児童への参加斡旋依頼を行った。</p>

	<p>8. 鬼神野地区のボランティアとの打ち合わせ 参加者：4名（婦人会会長、利右衛門一座代表者、社協2名） 会 場：鬼神野地区基幹集落センター 内 容：事業の趣旨説明と参加協力依頼を行った。</p> <p>9. 社協職員会議 参加者：社協職員10名 会 場：鬼神野地区基幹集落センター 内 容：打ち合わせ及び現地確認</p>
8月	<p>「発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉キャンプ」 ※ <u>台風により延期となった。</u></p>
9月	
10月	
11月	<p>10. 社協職員会議 参加者：社協職員10名 会 場：西郷生きいきトレーニングセンター 内 容：実施内容や日時、対象者等の再検討</p>
12月	
1月	<p>11. 社協職員会議 参加者：社協職員10名 会 場：西郷生きいきトレーニングセンター 内 容：内容の詳細検討とスケジュール検討</p> <p>12. 鬼神野地区役員会（内容検討会議） 参加者：24名（地区役員20、育成会会長1、社協3） 会 場：鬼神野地区基幹集落センター 内 容：地区役員会に出席し、事業実施の再提案と協力依頼を行った。合わせて、内容と協力体制について意見交換を行った。</p>
2月	<p>13. 鬼神野地区役員会（内容検討会議） 参加者：24名（地区役員20、育成会会長1、社協3） 会 場：鬼神野地区基幹集落センター 内 容：地区役員会に出席し、事業の詳細の検討打合せを行った。</p> <p>14. 鬼神野地区のボランティアとの打合せ 参加者：5名（婦人会会長、育成会会長、民児協会会長、社協2） 会 場：鬼神野地区基幹集落センター 内 容：事業内容の確認と協力体制について検討した。</p>
3月	<p>15. 「発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験」</p>

② 発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験

ア 日 時 平成27年3月8日（日）9：00～16：30

イ 実施地区 美郷町南郷鬼神野地区

ウ 会 場 鬼神野地区基幹集落センター

エ 参加対象者 美郷町内小学2～6年生 21名

オ 協力していただいた方々 50名

- | | |
|-------------------|-----|
| ・鬼神野地区公民館役員 | 14名 |
| ・鬼神野地区婦人会 | 4名 |
| ・南郷地区民生委員児童委員協議会 | 3名 |
| ・南郷分区日本赤十字奉仕団 | 2名 |
| ・鬼神野地区の高齢者（訪問受入れ） | 16名 |

カ スケジュール

時間	日程
9:00	集合・受付
9:10	開会式
9:20	オリエンテーション
9:30	クイズ、美郷町ってどんなまち？（福祉学習）
10:00	チャレンジ企画！ダンボールで避難所を作ろう（災害時避難所体験）
11:30	実食体験（非常食って、食べたことある？）
13:00	突撃インタビュー！（地域の高齢者にお話を聞こう）
15:00	ふりかえり
15:30	発表とまとめ（こんな美郷町を作りたい）
16:00	閉会式
16:30	解散

キ 内容

（ア）趣旨説明及び福祉学習（導入）

今のみんなの「福祉のイメージ」についての問いかけから事業をスタートしました。

～みんなのイメージは？～

- | | | |
|-------|----------------|------------|
| ・大変そう | ・みんなで支えあっていくこと | ・認知症 |
| ・介護 | ・優しさや思いやり | ・車いす など... |

福祉とは、障がい者や高齢者のためだけにあるものではなく、地域に住むみんなのためにあることを学習しました。その上で、「地域みんなが支えあっていくこと」＝「地域福祉」を確認し、今回の趣旨として、この「地域福祉」の必要性について学ぶということを確認しました。



(イ) クイズ、美郷町ってどんなまち？

地域福祉を学ぶには「まず、自分の住んでいる地域を知る」ことが重要であることから、○×クイズ形式で楽しみながら美郷町について理解を深めました。

『※以下、クイズの一例』

クイズ
美郷町って
どんなまち？

私たちの住んでいる美郷町は一体どんな地域なのか、数字で見てください。



『第1問』
美郷町の人口は7,000人をこえている？

×

美郷町の人口はおよそ6,080人です。
宮崎県内市町村の中で、7番目に少ない地域です。

『第4問』
認知症になっても、自分の住み慣れた自宅や地域で暮らすことができる？

○

認知症になっても、自分の住み慣れた地域で暮らし続けることができます。
家族や地域の方の理解とサポートで、自宅で暮らすことは可能です。また、自宅で介護をする家族の方のフォローも大切です。

(ウ) チャレンジ企画！段ボールで避難所を作ろう

災害を切り口とした、段ボールでの避難所作り体験を行いました。

段ボールベッドや段ボールパテーションは、東日本大震災時の教訓から実際に販売されている専用のダンボールを使用しました。ベッドの構造や作り方を学習すると同時に、被災者（避難者）に配慮した避難所の配置等を考えながら作りました。

地域の方々も全員参加で協力して作成することができ、日常生活の中での「支え合い・助け合い」の大切さや「協調性」を学ぶことができました。



(エ) 実食体験！非常食って食べたことある？

避難所作り体験の延長として、昼食を兼ねた非常食の試食体験を行いました。

調理は、鬼神野地区婦人会、赤十字奉仕団員、民生委員児童委員の方々に協力していただきました。

普段とは違う味に、「冷たいイメージだったが温かくてよかった。」「意外と美味しかった。」「今日は美味しかったけど、この味が毎日続くのはちょっと嫌です。」など、それぞれ感じてもらえたようでした。



(オ) 突撃インタビュー！ 高齢者宅に訪問しよう

地域福祉を学習する上で、地域を知ること、そして地域にはどんな人が暮らしているのかを実際に地域に出て学ぶことを目的に、フィールドワークを行いました。

班ごとに、各2か所のひとり暮らし高齢者宅と1か所のよりあいサロンを訪問し、自分たちで考えた質問をするなどして聞き取り調査を実施しました。訪問先では必ずお返し（お礼）をする、という約束ごともし、合唱や肩もみをするなどして交流を深め、高齢者の方にも大変喜んでいただけました。

役員や民生委員児童委員の方も案内役として同行し、一緒に交流をする中で日頃と違った視点で地域に目を向ける機会となりました。



(カ) ふりかえりと発表

班ごとに一日を振り返り、地域の方々の前で発表しました。



【 1 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「段ボールだけで避難所作りができること。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食に慣れておきたい。温かくておいしい。」</p>	<p>「とてもいい人とお話をしたい。みんなと一緒だと、ほっとする感じがする。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「南郷(鬼野地区)の古い建物で、高齢者が住んでいる。高齢者が住むことで、地域が元気になることを目指す。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「高齢者が安心して暮らせる環境がほしい。若い人口を増やしたい。」</p>	

【 2 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「みんなが協力して作った段ボールの避難所作りは、みんなのために役に立つ。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食の作り方や味など、とても役に立つことがわかった。」</p>	<p>「鬼野地区に住む、おじいちゃんやあんなんちと、とてもいい話をすることができた。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「なかなか体験する機会がないので、とてもいい機会だった。これからまた福祉の仕事をしたいと思うので、日頃から地域のことを考えていきたい。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「子どもたちが多く、町のみんなが助け合える美郷町。」</p>	

【 3 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「みんなが協力して作った段ボールの避難所作りは、みんなのために役に立つ。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食の作り方や味など、とても役に立つことがわかった。」</p>	<p>「鬼野地区に住む、おじいちゃんやあんなんちと、とてもいい話をすることができた。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「みんなと協力して、避難所作りをすることができた。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「みんなが仲良く、安心して暮らせる。」</p>	

【 4 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「みんなが協力して作った段ボールの避難所作りは、みんなのために役に立つ。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食の作り方や味など、とても役に立つことがわかった。」</p>	<p>「鬼野地区に住む、おじいちゃんやあんなんちと、とてもいい話をすることができた。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「みんなと協力して、避難所作りをすることができた。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「みんなが仲良く、安心して暮らせる。」</p>	

【 5 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「みんなが協力して作った段ボールの避難所作りは、みんなのために役に立つ。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食の作り方や味など、とても役に立つことがわかった。」</p>	<p>「鬼野地区に住む、おじいちゃんやあんなんちと、とてもいい話をすることができた。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「みんなと協力して、避難所作りをすることができた。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「みんなが仲良く、安心して暮らせる。」</p>	

【 6 班】

◆ 福祉学習 ◆	◆ 段ボールで避難所作り ◆
<p>「福祉学習の目的は、地域の人々との交流を促すこと。みんなが協力してみんなのために活動することで、地域がよくなることを目指す。」</p>	<p>「みんなが協力して作った段ボールの避難所作りは、みんなのために役に立つ。」</p>
◆ 非常食体験 ◆	◆ 高齢者宅訪問 ◆
<p>「非常食の作り方や味など、とても役に立つことがわかった。」</p>	<p>「鬼野地区に住む、おじいちゃんやあんなんちと、とてもいい話をすることができた。」</p>
◆ 全体の感想 ◆	
<p>「みんなと協力して、避難所作りをすることができた。」</p>	
◆ こんな美郷町だったらいい ◆	
<p>「みんなが仲良く、安心して暮らせる。」</p>	



(キ) 社協職員によるまとめ

一日の学習を振り返り、感想発表を踏まえて支え合いの地域の必要性を再度確認しました。福祉は誰にでもできる、みんなが自分にできることを無理なくやることを学ぶことができました。

(ク) 修了証の授与

福祉について学んだ証として、一人ひとりに修了証を授与しました。



(ケ) 役員の方からの講評

「子ども達の気付きに大変感激し、私たちも多くのことを学ぶことができました。このような素晴らしい事業を鬼神野で開催していただき、本当に嬉しく思っています。」とお話いただきました。



3 福祉教育の実施体制等

事業の実施体制と関係機関との関わり

(1) 協力していただいた方々 50名

- ・ 鬼神野地区公民館役員 14名
- ・ 鬼神野地区婦人会 4名
- ・ 南郷地区民生委員児童委員協議会 3名
- ・ 南郷分区日本赤十字奉仕団 2名
- ・ 鬼神野地区の高齢者（訪問受入れ）16名

(2) 関わりのポイント

コンセプトである「地域に密着した福祉教育」に基づき、鬼神野地区の役員と協働して計画し、上記のように、役員をはじめとする多くの方々に協力して頂くことができました。

年間を通して公民館の役員会に出席し、顔の見える関係づくりに努めたことが、事業への理解、協力を繋いだと感じています。

「発見！美郷の地域力 鬼神野ふれあい福祉体験」では、児童と一緒にメニューに参加していただき、フィールドワークでは、地域の案内役、高齢者との仲介役としてその強みを発揮していただきました。

地域自治会は地域の基盤であり、その役員さん方に参加協力していただいたことが今回の事業のひとつのポイントであり、地域福祉を推進していく上でも重要なことだと再確認したところです。

4 成果と課題

今回の事業では、将来の美郷町を担う子どもたちも、地域を支えてきた大人たちも、目的としていた、福祉や地域を考える「きっかけ」となり、自分たちの住んでいる美郷町の魅力と課題に対する「気づき」を促し、「支え合いの地域の必要性」を感じてもらうことができた実感しています。

なによりも、鬼神野地区役員をはじめとする地域の方々の参加協力を得られたことは大きな成果であり、地縁や住民同士の繋がりや強さ、いい意味でのお節介な部分など、美郷の魅力を生かした福祉教育の展開に魅力を感じることができました。

これからも美郷の魅力を生かした福祉教育を展開していくためには、地域自治会との連携体制を構築していく必要があります、社協のPRや顔の見える関係づくりが今後の課題と考えています。



ふくしを学んだ
いろんなことを知った

ふくしは空気みたい
見えないけど
わたしたちに必要なもの
わたしはふくしをやる
やりつづける

つながれてきた
奇跡的ないのちが
喜ぶように…

宮崎県福祉教育推進事業実践報告書

日向市大王谷学園校区における福祉教育実践
大王谷ふくし学園2014



1. 地域の概要・課題等

(1) 日向市全域

人口統計では、日向市においても他の市町村と同様に人口減少と少子高齢化が進行するとともに、1世帯当たりの人員は減少しており、世帯の“少人数化”も進んでいます。また、不安定な経済情勢や雇用環境の厳しさにより、若者の働く場がなく、18歳から40歳代の“若者”の人口流出が目立っています。

若者が減少し、高齢者が増加する状況の中で、地域コミュニティも衰退し、住民同士の「相互扶助」機能は弱体化し、地域住民の多様な生活福祉課題への対応は難しくなっている現状があります。特に生活困窮者に対する支援体制の構築が急務であり、現在の地域社会に即した新たな地域コミュニティの構築と生活福祉課題解決のための福祉関係機関のネットワーク強化・充実に求められています。

日向市の現状としては、合併以前より東郷地区においては、地域福祉を推進するための基礎組織として地域福祉推進協議会を立ち上げ「福祉推進員制度」を導入し、地域住民の地域福祉活動の推進を図ってきました。

日向地域においては、地域福祉を推進するための基礎組織の構築が十分に達成できておらず、地域福祉を推進する地域住民や個人、グループ・団体、福祉関係機関が“点在”しているような状況にあります。

このような状況を打開するために、地域福祉コーディネーター（社協職員）が調整役となり、住民相互の“つながりの再構築”を図りながら、地域福祉を推進するための基礎組織として自治会ごとに“福祉部の設置”や福祉教育をとおした新たな地域福祉の“担い手”の確保を進めています。

(2) 大王谷学園校区

大王谷学園校区は、宅地造成により新築住宅やアパート、マンション等が建設され比較的若い世代が多く暮らしており、市内でも児童生徒数の多い地域となっています。若い世代の核家族が多いことにより、地域に暮らす児童・生徒が高齢者とのかかわりに乏しい状況があり、地域住民同士の“つながり”という面では、世代ごとに偏りが見られ、それぞれの世代をつなぐことが地域の課題としてあげられます。

校区内の地域によっては高齢化率の高い地域もあり、高齢者に関する福祉課題や生活課題を地域で解決する仕組みづくりも課題となっています。

地域に暮らす住民の“困りごと”を地域の課題としてとらえ、地域住民で支えるために、福祉の正しい理解や地域の実態を“知る場”、具体的な活動に取り組むための住民同士が“出会う場”“考える場”、そして考えを“実践する場”が必要であると考え、地域を基盤とした福祉教育の実践に取り組んできました。これまでの福祉教育実践のプロセスや成果を踏まえた、新たな地域福祉の担い手による地域福祉活動の実践が求められています。

2. 福祉教育の活動内容

(1) 目的（何のために…）

福祉教育をとおして、福祉への関心と正しい理解を図り、“ふだんの暮らしをしあわせ”にするために、児童一人ひとりが“できること”を主体的に考え、行動する力を育むことを目的とする。

※ふくしの学びをとおして、気づく力（感じる力）、考える力、行動する力を育み、児童一人ひとりの可能性を広げる。

(2) 目標（目指したゴール！）

目標1) ふくしに関心（気づき）を持ち、ふくしの正しい意味を理解する

目標2) 繋がれてきた奇跡的な“いのち”を感じ、違いを認め、互いに尊重できるようになる ※“認める力”

目標3) しあわせを“感じる力”（“気づく力”）を得る

目標4) ふだんの暮らしをしあわせにするために、自分たちに“できる”ことを“考える力”、“行動する力”、“続ける力”を得る

目標5) 学びを“伝える力”（表現する力）を得る

目標6) イメージを“カタチにする力”を得る

※ふだんの暮らしをしあわせにするための“チカラ”を高める
認める力、気づく力、感じる力、考える力、行動する力、続ける力、伝える力、表現する力、カタチにする力

(3) 学びのプログラム

プログラム1) 「ふくし」ってなんだあ？

日時：平成26年11月1日（土） 9:00～12:00

場所：亀崎東公民館

内容：正しい「ふくし」の理解

ふくしってなんだ？／しあわせって何だ？／違いを認めると…

参加：24名（小学生20名、大学生3名、一般1名）※職員スタッフ6名



ふくしの意味を考え理解し、日常生活の中での「ふくし」を身近に感じる。
しあわせに生きるために必要なチカラについて考え、学ぶ。

プログラム2) 地域探検・調査

日時：平成26年11月8日（土） 9:00～15:00

場所：亀崎東公民館、大王谷学園校区内地域

内容：暮らしている地域を“知る”

地域訪問調査／住民インタビュー／福祉マップ作成／発表・共有

参加：32名（小学生30名、大学生2名）※社協職員11名



地域探検の前に、各グループで「作成会議」を行い、役割分担と調査地域の仮説を立てました。地域探検の視点を「人として…」(私が〇〇〇だったら…)と設定し、人としての視点を大切にしながら地域住民に対して“ふくしインタビュー”や危険箇所、気になる箇所の調査を行い、新たな“出会い”“気づき”“発見”をとおして、地域を“知る”実践を行いました。

探検後、事前に立てた仮説と実際の調査結果を比較しながら、自分たちが暮らす地域の実態について理解を深め、まとめとして地域診断書（地域アセスメント）を作成しました。

活動をとおして、身近な住民の地域生活の実態や地域で人が支え合いながら暮らしている現状を知る機会となり、福祉をより身近なものに感じる時間となりました。

プログラム3) 福祉活動企画（やってみたいこと会議）

日時：平成26年11月22日（土） 9:00～12:00

場所：亀崎東公民館

内容：福祉活動企画書作成 ※テーマ「人を喜ばす」
 やりたいことリスト作成／手段・方法を考える／全体共有
 参加：28名（小学生25名、大学生3名）※職員スタッフ9名



学びを実践に活かすために、人を喜ばすことをテーマに「やりたいことリスト・企画書」を考え、宣言をしました。

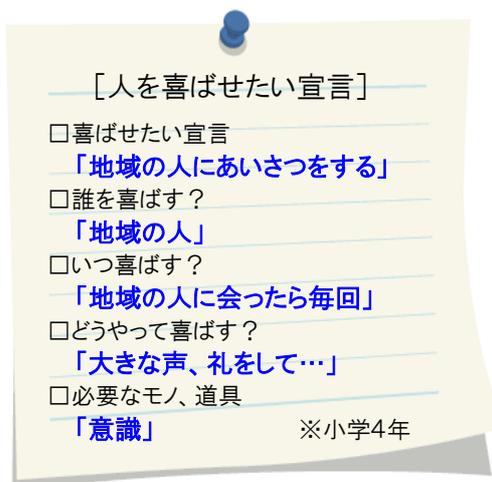
プログラム4) 福祉活動実践

期間：平成26年11月23日（日）～平成27年1月16日（金）

内容：やってみたいことリスト（福祉活動企画）の実践。

人を喜ばすことを意識し、参加者自らが企画した福祉活動を、日常生活の中で実践する活動に取り組みました。

参加：28名（小学生25名、大学生3名）



[人を喜ばせたい宣言をやってみての感想]

- あいさつをすると喜んで返してくれた人がいた。
- あいさつをすると逆にびっくりする人もいた。
- 実際に活動をやってみて、地いきの人はびっくりする人がいたので、もしかしたら大きな声であいさつになれていないからわたしの地域はもしかしたらあいさつする人が元気にやっていないのかもと思った。
- わたしはこの企画を実際にやってみて、地いきのことを知れたので参加してよかったなあと思いました。
- また、ふくしが今日終わるけれど、これからもあいさつを続けていって、地いきの人にあいさつをなれてほしいので、ふくしが終わってもこの自分が決めたことを続けていきたいです。

プログラム5) 福祉活動実践の振り返り、学びの確認

日時：平成27年1月17日（土） 9:00～12:00

場所：大王谷学園初等部算数ルーム

内容：福祉活動実践自己評価・分析／発表・共有／到達度テスト

ふくしの木（ふくしの実）作成／やること宣言／卒業セレモニー

参加：22名（小学生19名、大学生3名）※職員スタッフ11名



3年後実らせたいふくしの実



これからの地域社会は、
私たちの手で…



修了証書の授与



ふくしツリー完成！



3年後”…
あなたが、家族が、友達が、地域の人が、「しあわせだあ」と
感じることができるような、ステキな毎日を送るために…

私たちはできることやる！ やり続ける！

“宣言”を実践することができた児童やできなかった児童結果はさまざまでしたが、この実践を通じてやればできるという自信、できない理由ではなく、できる理由探し、人のために自分の力を使うことの意味を学ぶことができました。

プログラム6) 特別プログラム福祉ミッション(認知症徘徊模擬訓練 in 亀崎中区参加)

日時：平成27年3月8日(日) 8:30~12:00

場所：亀崎中区公民館、亀崎中区域

内容：認知症徘徊模擬訓練 in 亀崎中区に参加

気づき、声かけ、通報、対応訓練

参加：12名(小学生12名) ※職員スタッフ6名



事前ミーティング



…!! 発見か?



声かけ難しい…



通報伝達訓練



訓練、振り返り、まとめ



学びを住民へ発表!

学びを地域活動に活かす場として、大王谷校区内の地域（亀崎中区）の福祉部主催の認知症徘徊模擬訓練へ参加しました。地域の中で実際に起こうる生活福祉課題を想定し、住民とともにその課題解決に向けた支援活動を体験しました。

3. 福祉教育の実施体制等

(1) 事業の実施体制

ふくし学園の企画については、これまでの福祉教育実践を踏まえ、福祉教育担当者、地域支援係、本会が配置する地域福祉コーディネーター（地域担当職員）、大王谷学園初等部教職員（管理職）により協議・検討しました。

事業の基本的な展開として、「ふくしを学ぶ」⇨「地域を知る」⇨「行動するためのきっかけづくり」⇨「福祉活動実践」の計4回の学びのプログラムで構成しています。特徴としては、学びをイベント的に“単発”で終了することなく、学びの“継続性”を意識した展開としているところです。

参加対象は、生徒・児童を中心に、学校関係者、保護者、自治会役員、地域住民、校区内にある福祉施設職員等としています。

事業実施の時期については、学校、自治会代表・役員、民生委員児童委員、福祉関係者等と相談・協議のうえ決定しました。

ふくし学園の参加者募集については、募集案内チラシを作成・配布し、学校（生徒・児童、PTA、学校関係者）、福祉関係機関、民生委員児童委員、自治会代表、社協広報誌等で学園生募集を行いました。

(2) 学校との連携

平成25年度のふくし学園の成果を踏まえ、学校管理職に対して事業の企画提案を行い、活動に対する学校としての考え方や意見・アドバイスをいただきました。その中で、日常の学校生活の中で、気になる生徒、児童の状況を報告いただき、学校教育や家庭教育に加えて、地域教育の重要性や必要性、その可能性について相互に理解を深めました。学校、専門職、地域が連動した実践として、地域での福祉の学びや住民との出会いやふれあいをとおした活動から社会性や対人関係能力を高めることを確認しました。（児童・生徒の状況によっては、居場所づくりの要素を含んだ活動としても理解いただきました。）

学校の先生より活動への参加や活動期間中の児童・生徒に対して声かけ・促しをしていただき、学校内で活動に対するサポートしていただきました。また、社協と学校が活動をとおして連携し、相互に児童・生徒の様子を共有することによって、学校教育活動や福祉教育活動を推進することになりました。

(3) 地域の連携

福祉教育活動を実践するにあたり、今回のプログラムは、参加生徒・児童が主体的に考え、動き、学ぶことをポイントとしたため、地域の自治会長・役員、民生委員児童委員、地域住民、福祉関係者への事前の調整は、生徒・児童の“動き”に合わせた対応をお願いしました。（学びとして特別な状態をつくるのではなく、日常のそのままの地域の姿を児童・生徒に知ってもらおうことを大事にしました。）

(4) 社協職員として…

プログラム1) 「福祉の正しい理解」

福祉の正しい理解のために、視覚的効果（動画、写真）を意識し、興味・関心（心が動く）を持てるようなふくし学園オリジナルのふくし教材を作成しました。

教材を作成するうえで大切にしたい要素は、「ふくしってなんだ」「違いを認める」「しあわせってなんだ」「当たり前感謝」「感じて動くこと」の5つとしました。

この5つ要素を60分で展開できるように、身近な事例や感動する話、心に届く質問等を用いて作成しています。

常日頃の取り組みとして、福祉をわかりやすく理解してもらうために、日常的に福祉教育の教材収集に努めています。（いい話や感動する話、福祉的な情報・活動等）

プログラム2) 「地域探検・調査」

地域を知るための地域探検・調査については、事前に職員による地域資源の調査・把握を行いました。

地域探検・調査は、探検地図をもとに、子どもたちの“視点”を大事にすることを意識し、新たな発見や気づきは地図に書き込み写真とメモで記録するようにしています。今回は、調査項目の中に、災害時の避難経路や避難場所についての項目を必ず入れるようにしました。

地域探検・調査後は、探検記録（写真・メモ）をもとに、地域探検マップ作成し、地域分析を行い、“気づき・発見・学び”をマップという“カタチ”にします。この地域探検マップは地域情報として自治会や学校で報告・掲示し、地域住民の地域福祉の啓発に活用しています。

プログラム3) 「福祉活動企画」（やってみたいこと会議）

これまでの実践活動は、企画の段階で実践活動が決められていたこともあり、参加者の主体性にかける状況があったため、人を喜ばすことをテーマにワークシート（やりたいことをやる企画書）を用いて一人ひとりに考えてもらい、「自分がやりたいこと、やれることは何か」をリスト化し、その中からやることを1つ決めてもらい、実践に向けて宣言をしてもらいました。

与えられた課題ではなく、自分たちの力の使い方や人をしあわせにするために自分たちが“できること”を考え、実感できるような展開としました。

※想像をカタチにするために、気づき⇨考え⇨計画⇨行動までのプロセスを確認

プログラム4) 「福祉活動実践」

定められた期間中に、自らが立てた「やりたいことをやる企画書」を実践し、“動けば変わる”ことの実感と、自分にも“できる”という自信や意識の醸成を目指しました。

社協スタッフは、福祉活動実践の企画書の内容がそれぞれ異なるため活動の進捗状況を確認し、“活動支援の申し出”があれば、必要な関係者や支援者の調整やアドバイス等個別に対応することとした。

プログラム5) 「福祉活動実践の振り返り、学びの確認」

プログラム4の「福祉活動実践」を振り返り、実際に「動くこと」の重要性と実践後の見えるカタチの変化と自分の気持ちや感情の変化（見えないカタチの変化）を参加者で共有しました。

学びの到達点を確認するために、「学びチェックシート」を準備し、学びの見える化を図りました。

これまで学びを日常生活に活かすための意識づけとして「ふくしの実」の作成を行い、一人ひとりが3年後の姿をイメージし“宣言”をしました。

この宣言の確認として、3年後、再度、「大王谷ふくし学園2017」を実施する予定としています。点として終わらせるのではなく、成長の過程（小学校、中学校、高校、大学、社会人…）で福祉教育を実践しながら、地域福祉実践を推進することをイメージしています。

プログラム6) 「特別プログラム福祉ミッション」認知症徘徊模擬訓練 in 亀崎中区

主催者（亀崎中区福祉部）と訓練企画について協議を行い、子どもたちの想定した内容を取り入れていただき、修了者の参加を調整しました。

学びの修了者として、暮らしている地域での福祉活動へ参加し、訓練をとおして住民に対して“子どもの声”（子どもならではの視点）を届け、相互に支える意識の醸成を図りました。

4. 成果と課題

(1) 参加者、地域

- 連続性のある福祉教育の実践により、福祉が特別なものでなく、人が“しあわせに生きる”こと、身近にあるものとして“実感”することができた。
- 福祉の正しい理解のもとに、地域探検、調査を行うことにより、新たな気づきや発見をとおして、自分たちが暮らしている地域をより深く“知る”ことができた。
- 新たな“出会い”とおして、地域との“つながり”を広げることができた。
- 地域の良いところや福祉課題、生活課題に気づくことができた。(地域調査・分析)
- 福祉活動実践することで、自分たちの力（行動）で、人を喜ばせることができるということを“実感”することができた。
- 子どもたちのふくしを学ぶ姿や真面目な議論が、地域に暮らす大人への刺激となり、地域住民に対する地域福祉の啓発につながった。

この実践をとおして、地域福祉活動が特別なものでなく、地域住民一人ひとりの

ふだんのくらしをしあわせにするための活動であり、一人ひとりができること考え、行動し、継続することがよりよい地域生活を実現させることにつながることを学び・共有する場となりました。

これからのよりよい幸せな地域を想像（イメージ）し、その想像を創造（カタチ）するために、今住民一人ひとりが行動するための“きっかけ”を得ることができ、これからの地域福祉の可能性を大きく広げる結果となりました。

（2）社協、社協職員

- ふくしを「学ぶ」「気づく」「感じる」「考える」「行動」という要素を盛り込んだ福祉教育の展開と実践を確立することができた。
- 職員自身のスキルアップにつながり、福祉教育の幅（教材、方法・手法）を広げることができた。
- 学校、地域、専門機関が連携をした福祉教育実践のカタチをつくることができた。
- 地域の中で、福祉教育を実践することで、地域の現状把握や地域福祉を推進するための新たな“人財”や“きっかけ”を発見することができた。
- 地域住民に対して、社協の使命や役割、めざしているものを伝えることもでき、社協や地域福祉活動に対する住民の理解・認識を高めることができた。

地域の中で、福祉教育を実践することで、地域の現状把握や地域福祉を推進するための新たな“人財”や“きっかけ”を発見することができました。あわせて社協の使命や役割、めざしているものを伝えることもでき、社協や地域福祉活動に対する住民の理解・認識を高めることができました。

（3）これから…

この地域を基盤にした福祉教育実践を基に、学校教育と連携・連動した世代ごとの福祉教育の実践により、これからの地域社会の“担い手”の育成を図り、あわせて、現在進行中の個別支援から地域支援を一体的に支援する総合的な福祉実践をとおして、“相互に支え合える地域社会づくり”を推進してまいります。

福祉教育プログラム1

「ふくして
なんだろう？」

6月11日(木)

いのち、くらし、よりよく…



ふだんのくらしを
しあわせにする

「福祉のイメージは？」

「私は…」

「あなたの大切なものは…」

【子どもインタビューの回答】 ※一部抜粋

第1回の学びの終了後に、子どもが身近な大人に福祉について、インタビューをした回答です。

- ◎障がい者やお年寄りをサポートすること。
- ◎体の不自由な人とかを助けたり手伝ったりする仕事。
- ◎弱者を救済すること。
- ◎ボランティア、高齢者のお手伝い。
- ◎しあわせをみんなに与える。
- ◎助け合いを行う社会の仕組みや考え方。
- ◎国や県、市町村が障がい者や生活に困っている人、お年寄りなどに対して助けてくれる制度。
- ◎私のイメージは、「人を幸せにする」とか、「人を助ける」とかです。だから聞かれたら、『人を大切にすることです』と答えます。
- ◎お互い助けあうこと、自分の持っている物を分け合う。
- ◎人のために自分ができることをすること。
- ◎みんなで助け合って、みんなの幸せを考えること。
- ◎真心を込めた活動。

福祉教育プログラム3

地域を知ろう！
「地域調査隊」

6月29日(月) 30日(火)
7月2日(木)



カベに落書きが…

民生委員さんへ

区長さんのお話

地域の人へインタビュー

今、どこ??

放置自転車が…

…ゴミが散乱!

「お話をきかせてください」

【地域調査の結果、児童の新たな発見・気づき】 ※一部抜粋

- ◎暮らしている地域に、土石流が心配されるところがあった。
- ◎地域の中に、カーブミラーのない所や空き家があり、小さい子どもが遊んだら危険。
- ◎自転車が3台捨てられていた。ゴミもたくさん落ちていた。ポイ捨てが多い。
- ◎道路に段差があり、車いす(電動)では登れない人がいた。
- ◎僕たちの地域には坂がたくさんあるので、高齢者の人には悪いんじゃないかと思った。
- ◎地域の行事に参加している人の数が年々減ってきているということ。
- ◎今のところ困っていることはないが、近所の方とあまりふれ合うことがない。
- ◎道路の止まれと書いているところが消えていたことに気が付きました。
- ◎インタビューで暮らしを幸せにするには、近所の人と仲良くすると言う人が多かった。
- ◎子どもがたくさんいることが、地域の良い所なんだなあと知った。
- ◎民生委員はお年寄りから子どもまで、全ての人の相談にのる人の集まり。
- ◎私たちの住んでいる地域は山を削って作られた地域ということに驚きました。
- ◎人を傷つけずにやさしくして、人が人を強くできるような人になりなさいと区長さんに言われうれしくなった。
- ◎防災ダムや高い避難通路を見つけたので、安心しました。
- ◎高齢者施設の人が高齢者や障がい者とふれあい交流してほしいと言っていた。
- ◎高齢者や体が不自由な人々の支援の「つなぎ役」になる人がいることを知った。
- ◎地域の人、畑で育った野菜などを分け合ったりしてとても仲良くしていた。
- ◎昔から地域に暮らしている人たちだからこそ、私たちが知らないことを知っていた。

福祉教育プログラム4

地域を知ろう！
「地域診断書」

7月7日(火)



気づきの確認
診断書の作り方

地域の特別ゲスト
区長、民生委員のみなさん

区長さんからの
新たな情報提供

民生委員さんからの
新たな情報提供

気づいたことを
地域マップに記入

地域診断書作成

地域診断書作成

地域診断書完成

グループ発表

地域調査を基に、自分たちが暮らしている地域の診断を行いました。当日は地域の「特別ゲスト」として、大王谷学園校区内の区長や民生委員児童委員の皆様に参加をいただき、一緒に地域の良いところ、改善が必要なところを話し合い、地域診断書を作成しました。24グループの「地域診断書」が出来上がりました。

福祉教育プログラム5

支え合い模擬訓練！
「こんなときどうする？」

7月10日(金)



ゲストティーチャー

大王谷包括職員
池田実希

「こんなときどうする？」

支え方は人それぞれ…

できることも人それぞれ…

気づく
考える
行動する

プログラム5は、地域で暮らしている高齢者の生活実態を理解し、自分たちができることを考え、実践することを目標に模擬訓練「こんなときどうする？」を実施しました。

- こんなときどうするpart1 「押し車」
階段を上がれないおばあちゃんがいたらどうする？
- こんなときどうするpart2 「ゴミだし」
ゴミの日じゃない日にゴミを出そうとしているおばあちゃん、しかも分別できていない！どうする？
- こんなときどうするpart3 「一人暮らし高齢者の日常」
一人でさびしくご飯、オレオレ詐欺にあいそうなおばあちゃんどうする？

福祉教育プログラム2

地域を知ろう！
「作戦会議」

6月15日(月)



地域調査の
大切な視点

地域調査隊 作戦会議中

私たちの暮す地域の
仮説を立てる



ゴミ出しのルールが…

道路に穴が…

交番の人にインタビュー

「地域のいいところは？」

福祉施設の人にインタビュー

区長さんから
地域のことを学ぶ

学校+地域+福祉教育=地域で共に幸せに生きる教育

大王谷学園初等部(6年生)と日向市社会福祉協議会の協働企画として、総合学習の時間を活用したこれまでにない福祉教育プログラムの実践に取り組みました。大王谷学園はキャリア教育の研究を行っており、目標の一つとして大王谷の未来を担う「地域人」を育成しています。

この福祉教育の実践は、気づく力(感じる力)、考える力、行動する力を育み、児童一人ひとりの可能性を広げることを目的としています。具体的には、児童一人ひとりが、認める力、気づく力、感じる力、考える力、行動する力、続ける力、伝える力、カタチにする力を高めることを目標に、連続性、継続性のある福祉教育プログラムの実践を目指しています。

児童は、これまでの6回のプログラムで、地域の福祉課題を解決するための行動計画書(アクションプランシート)の作成を行いました。これから2学期以降のプログラムで具体的な福祉活動の実践に取り組む予定です。



仮説を立て、地域を歩いて調査し、自分たちが暮らしている地域の実態を知る。そして地域を「見える化」する「私たちの暮らしている地域は…」

福祉教育プログラム6

私たちにできること！
「子ども支援会議」

7月15日(水)



地域をしあわせにするために…

支援会議中

アクションプランシートの作成

グループ発表

私たちにできることは…

プログラム6は、一学期の学びの集大成として、「地域に暮らす住民のふだんのくらしをしあわせにするために、私たちがやりたい福祉活動」をテーマに、地域の福祉生活課題を解決するためのアクションプラン(子ども福祉活動計画)を作成しました。

地域の困りごとは？
理想の結果は？ どうしたい！
困りごとの原因・理由は？
理想の結果にするために、
私たちは何が出来る？
どんな福祉活動をする？

大王谷学園初等部
福祉教育プログラムは
のびく
to be continued...

新たな挑戦！ 大王谷学園初等部6年生 福祉教育プログラム

動いてみてわかったこと！
地域福祉活動報告

私たちの“想い”を“カタチ”にしようプロジェクト！

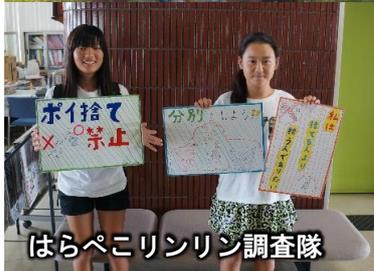
私たちは、考えるだけでなく、動いてみた！



かじっキー



キャンハゲ



はらぺこリンリン調査隊



亀崎中エース少年探偵団



亀崎東ひまわり&スマイル



ひまわり



亀崎中キッズ調査隊

大王谷学園初等部では、学校と地域、社協が連携・協働して、“地域を基盤にした福祉教育プログラム”の実践に取り組んでいます。

1学期中に実施した合計6回（13時間）の福祉教育プログラムをとおして、児童一人ひとりの福祉への正しい理解と自分たちが暮らしている地域の生活福祉課題の理解、その課題を解決するための24の“行動計画書”（アクションプランシート）を作り出すことができました。

今回、この学びを活かした新たな取り組みとして、夏休みの特別企画と題して、地域課題解決のための児童による福祉活動の実践にチャレンジしました。活動へは、7グループ、16名の6年生児童が参加し、8月中に、合計17回の地域福祉活動を行いました。



8月10日（月）参加者全員で“福祉活動調整会”

地域の課題解決のために“自分たちでできることを自分たちでやる”何を、いつ、どこで、方法・手段、必要なモノ、関係機関への連絡・調整スタッフの指示ではなく、全て自分たちで“考え”“行動する”



各グループが解決しようとした地域課題は…

ポイ捨て！ や ゴミ問題！

児童の“想い”
⇒ ゴミ一つない地域を！ きれいな地域に！



まずは、ゴミを拾う！

ポイ捨てはダメ！

捨てる人よりも拾う人が多ければ…

啓発のためのポスター作製

私はパソコンで…

区長さんへ報告、ポスター掲示のお願い

ポスター掲示

活動してわかったこと・感想

自分が拾ったところに次の日またゴミが落ちていた、腹が立つ！
ポイ捨てが多いのではなく、無関心な人が多いのかも…
ゴミを拾えば、ゴミは少なくなることがわかった
私たちでもやればできる！ 動けば変わる！
人の役に立つことはうれしい！

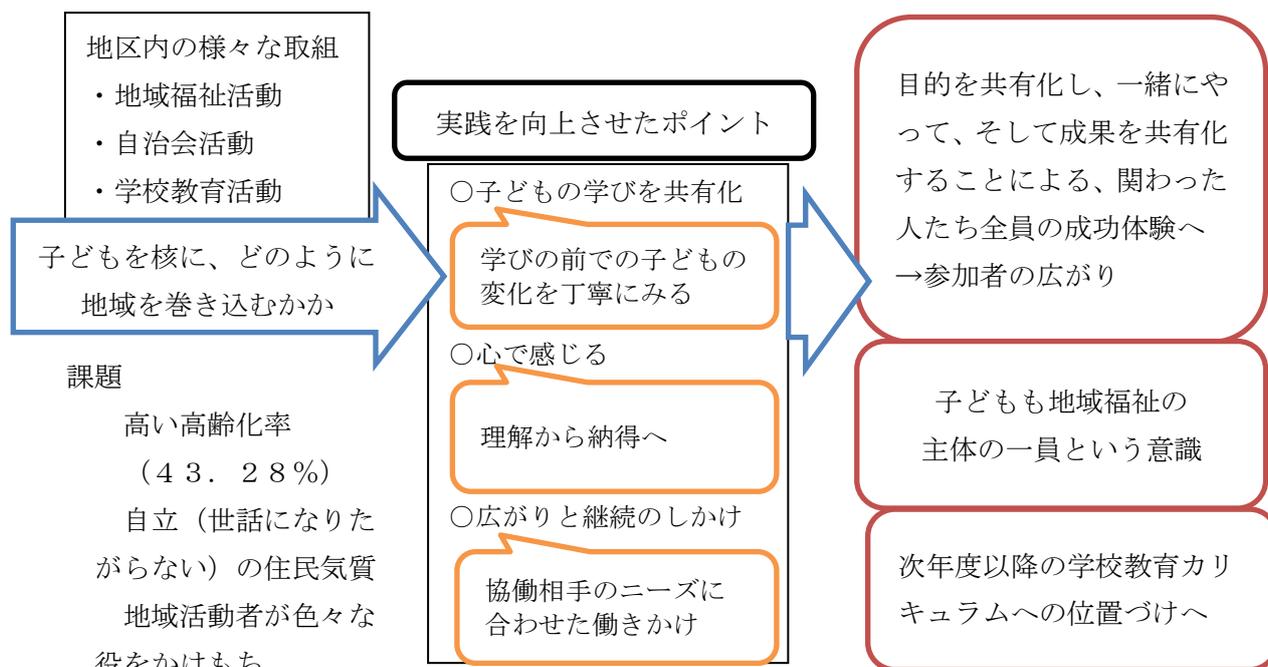


<この事例のポイント（県社協コメント）>

子どもを核とした福祉教育推進

～福祉教育推進のおうえん団を増やすための手法～

（日向市社協東郷支所）



地域住民が地域福祉への意識を高めていくプロセスの中で、気づきや学びを丁寧にとらえて共有化している実践であることに着目すると、以下の3つの視点が大切なポイントであると感じます。

1 子どもの学びとその共有化

1年目においては子どもの「ふくし」のイメージを変化させる学びの場を設定し、2年目においてはそれに加えて「障がい」についてのイメージを考えさせる場を設定している点が非常に重要だと感じます。

子どもは、「自分もできることをやらなければ」、「ふくしは友達、家族、そして自分も幸せになること」等とこれらの授業の中で感じており、また学んだことを授業参観などで保護者と共有しています。

このように、事業を受ける前と後での子どもの変化を丁寧に把握し、関係者と共有化することによって、この福祉教育の取組の重要性及び効果性を教師や保護者をはじめとした関係者に伝えており、これが福祉教育推進の応援団を増やすことにつながると考えられます。

2 心で感じる（実際にやってみることによる更なる学びの深化）

1年目は地域診断によって、地域の高齢者と言葉を交わし、2年目はそれに加えて実際の買物支援を肌で感じるようにプログラムされており、座学だけでなく実践により、子どもが深く学べるような作りこみがされています。

「思ったより自分の好きな趣味などを楽しんでいると聞いてびっくりしました。」と書かれてあるとおり、子ども達は、頭で理解するだけでなく、こころで感じて納得することが重要なのだと感じました。

こころで感じたことがきっかけとなり、「とうとうキッズおもてなしカフェ」や「みんなのマーケット」等の子どもが主体的に参加するイベントへつながっています。

3 広がりと継続のしかけ

学校との連携強化を図るにあたって、何度も担当教諭と協議したことや、継続的にカリキュラムに福祉教育の時間を確保できるよう関係性が構築できている点がとても素晴らしいと思います。

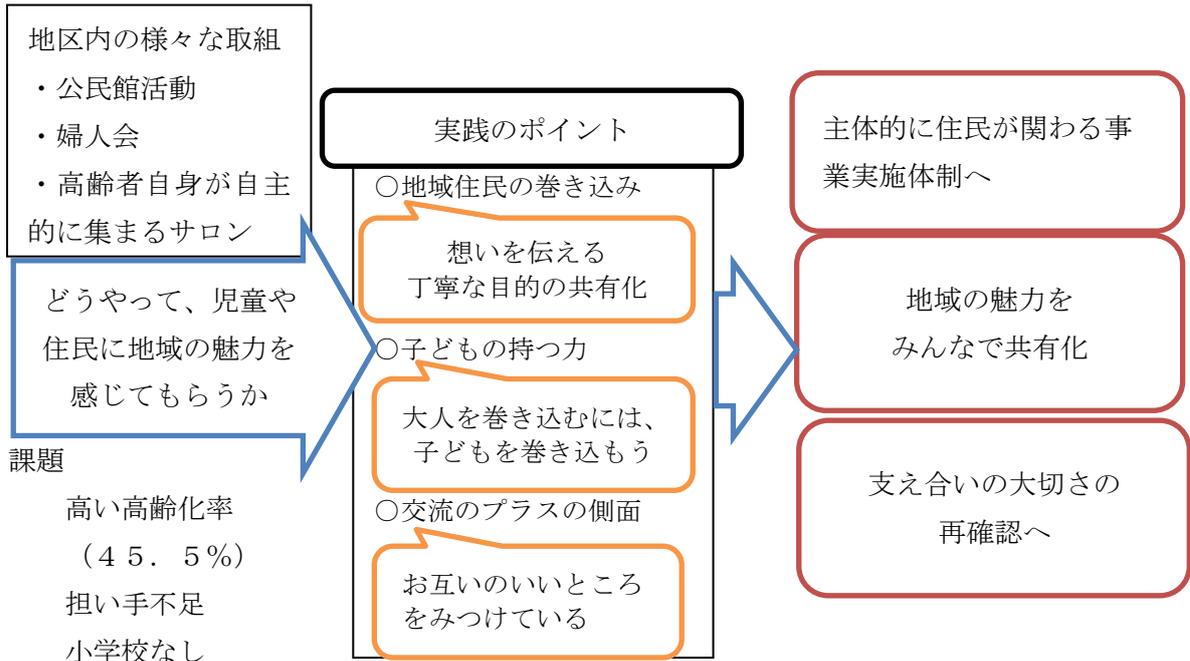
地域住民に対する「地域福祉研修会」において、住民に働きかけている場面が啓発の取組みとしてあります。さらには、関係機関への働きかけとして、まちづくり協議会に対しては「子どもたちの考えるまちづくり」を軸に、障がい者就労支援団体へは、その団体の実施している高齢者の買物支援を協働で行うことを軸に協議し、協力関係を構築しています。

こちらの理念やニーズをお伝えするだけでなく、関係機関と何度も協議することや協働相手のニーズに合わせてプログラムの作りこみをするによって、協力関係が構築できている例だと考えられます。また、それは東郷地区で様々に活動されている方々の力をうまく引き出している仕掛けともいえるのではないかと思います。

<この事例のポイント（県社協コメント）>

地域の持つ力を題材とした福祉教育
～地域力再評価の手法～

（美郷町社協）



地域がもともと持っている力をいかに「見える化」するか、福祉教育をツールとしてそれを可能にしている実践であることに着目すると、以下の3つの視点が大切なポイントであると感じます。

1 （企画段階からの）地域住民の巻き込み

企画時から地域の公民館役員との協議等を行って、さらには年間通して公民館の役員会に出席するなどして、丁寧に目的の共有化を図っている点、そして、役割分担をしっかりと話し合っている点が、素晴らしいと感じます。また、「地域の素晴らしさを再確認したい」という社協職員の熱い想いを地域の人に伝えることによって地域の人が動いてくれるのだろうと推測しました。

8月の台風で残念ながら、もともと企画していた1泊2日のプログラムは実施できなかったとのことですが、それまでの関係づくりを丁寧にされていたので、再調整しての事業の実施ができたのであろうと考えます。

2 子どもの持つ力

美郷町社協では、他の地域で展開されているように、子どもの持つ“大人を巻き込む力”を活用させたいと考えていましたが、鬼神野地区は、2011年に小学校が廃校になっているという現状がありました。

そこで、美郷町社協は、町内3つの小学校から子どもを鬼神野地区に連れてくるという手法を用いています。また、その手法を用いるため、町内の3小学校及び教育委員会に働きかけて、御意見をいただき、当日教員の方にも一緒に御参加いただいている点が素晴らしいと思います。

このような協力は、普段からの学校との関係性が良くなければ、いただけないのではないかと思いますので、美郷町社協の普段からの取組みが学校を動かす力を持っているのだと感じます。

単に地域の外の大人が来て、「この地域の魅力は〇〇だ、□□だ」といっても、地域の人にはなかなか聞いてくれないかもしれないと思います。しかし、子どもだと、たとえ地域に住んでいる子でなくても、大人と同じことを言っても、聴いてくれるし納得してくれるのではないかと思います。これは子どもの持つ大きな力だと感じますし、気づく子供が育っている美郷町の力でもあるかと思っています。

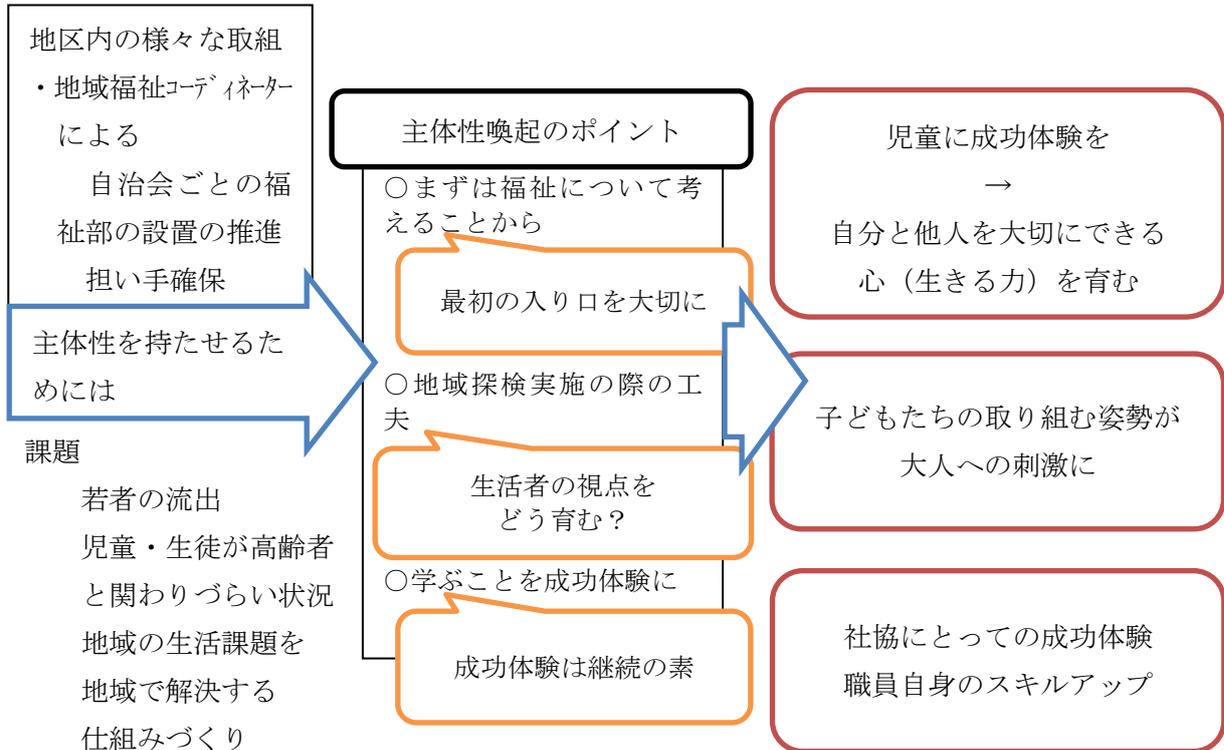
3 交流のプラスの側面（人と人が触れ合うのは、互いのいいところを見つけるため）

事例に記載されている以外にも、「役員さんたちのチームワークがすごかった」「優しく助けてくれた」という子どもの感想があり、それを聞いた地域の方々の「子どものためと思っていたが、自分の勉強になった」という感想が聞かれたそうです。地域の素晴らしさを子どもが見つけ、住民は、子どもの気づきの素晴らしさを感じるとともに、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさを再発見する。交流によって、お互いの良さに気づき、エンパワメントしあっている点がとても素晴らしい成果であると感じています。

<この事例のポイント（県社協コメント）>

学びの継続性を意識した福祉教育推進
～主体的に考える場をつくるための手法～

（日向市社協本所）



児童が主体的に考えるようにするために、どのような工夫をしているかに着目すると、以下の3つの視点が大切なポイントであると感じます。

1 まずは福祉について考えることから

体験事業や地域診断の前に、「福祉」について学ぶ場面が、県内の様々な地域で行われていますが、その場面（最初の入り口）から、児童に考えさせる場を作っているところが、重要なことだと感じました。

意識や目的の共有を児童とも行うということ、初めの入り口から児童と共に考えるということがとても大切だと思います。

2 地域探検実施の際の工夫

福祉の理解について学んだあと、地域探検にすすむわけですが、ここでは、まず前回の復習をプログラムに入れていることにより、児童が、生活者としての視点を頭において地域探検ができるよう意図されています。

地域探検をやることによって得られる効果の一つは、その地域のことを児童が認識するという点もありますが、もう一つは、そのような眼で普段何気なく歩いていた地域を、生活者の視点を持って児童が今後も歩く可能性を育む（福祉を身近に感じる）という点があります。

地域探検の中においても、前回の復習、気になるところの記録、まとめ、発表（全体共有）と、随所に自分で考え、気づく場面が散りばめられています。

3 学ぶことを成功体験に

福祉活動企画の実践で地域の方と一緒に“目指す地域の姿”を考えるグループワークはよくありますが、この日向市社協の事例のように、児童が実際にやることを児童に企画させるという事例にはあまりお目にかかれませんが、

さらには、11月から1月の間にその実践の時期を設け、実践の結果を発表する場面も設けていることにより、児童自身がさらなる学びの継続性を成功体験として感じるよう計画されています。

宣言を実践できなかったにもかかわらず、自分で考えたり、やってみようとしてみる場が児童に提供されたことは、素晴らしいことだと感じます。

なお、この実践において、学校からは期間中の児童への声かけ等、地域住民には児童の動きに合わせた対応をお願いする等して、児童の主体性を喚起する仕掛けが地域全体でできるよう社協から働きかけられていることがこの実践には不可欠であったことは言うまでもありません。